

令和8年6月20日

麻しん（はしか）患者の発生に伴う注意喚起について

令和8年6月19日（金）、市内の医療機関から麻しん疑い患者発生の連絡があり、富山県衛生研究所で遺伝子検査を実施したところ、麻しんであることが判明しました。今後、県内で更なる患者が発生する可能性がありますので、感染拡大防止のため、注意喚起するものです。

1 患者の概要

- (1) 患者：20歳代 男性
- (2) 予防接種歴：2回
- (3) 海外渡航歴：なし
- (4) 症状：発熱、発疹、咽頭痛
- (5) 現在の状況：自宅療養中
- (6) 経緯
6月17日（水）発熱（39℃台）、市内の医療機関を受診
6月19日（金）発熱持続、発疹出現し、市内の同医療機関を再度受診
富山県衛生研究所による検査の結果、麻しんと診断
- (7) 患者および感染源調査：調査中

2 感染の拡大防止のためのお願い

- (1) 麻しんの症状と感染力
 - ①麻しんの感染経路には、空気感染、飛沫感染および接触感染があり、極めて感染力が強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症すると言われています。
 - ②10～12日の潜伏期間の後、発熱や咳・鼻水などの風邪症状や、目の充血などの症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現し、4～5日高熱が続きます。その後、多くは7～10日程で回復します。
 - ③肺炎や中耳炎を合併することがあり、患者1,000人に一人の割合で脳炎を発症すると言われています。
 - ④症状が出現する1日前から解熱後3日程の期間は、周囲に感染させるおそれがあります。
- (2) 麻しんを疑う症状があり、医療機関を受診する場合の注意
医療機関を受診する際には、あらかじめ電話で麻しんの可能性があることを伝え、医療機関の指示に従って受診してください。受診時は、マスクを着用し、公共交通機関の利用を避けて、自家用車等で受診してください。

3 予防

麻疹は感染力が強く、手洗い、マスクのみでは予防できません。

最も有効な予防法は予防接種です。

麻疹の定期予防接種（第1期：1歳児、第2期：小学校就学前の1年間）の対象となる方は、予防接種を受けましょう。

麻疹にかかったことがなく2回の予防接種を受けていない方で、流行国に渡航するような場合は、かかりつけの医師にご相談の上、接種をご検討ください。

○麻疹に関する情報については下記のホームページをご覧ください。

・厚生労働省

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html

・国立健康危機管理研究機構

<https://id-info.jih.go.jp/infectious-diseases/measles/index.html>

4 麻疹の発生状況

年次	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
富山市	0	0	0	0	1
富山県	0	0	0	0	2
全国	6	28	45	265	525※

※令和8年6月16日時点速報値

【報道機関各位へのお願い】

麻疹に関する注意喚起を目的とした情報提供です。

報道に際しては、患者様ご本人およびご家族のプライバシーに特段の配慮をお願いいたします。

【お問い合わせ先】

富山市福祉保健部保健所保健予防課 結核・感染症係

電話：076-428-1152（直通）（当日17時まで対応します）